

# もっと知りたい！ みえの現場 すこやかトーク

## 「特定非営利活動法人 桑竹会」の皆さん

令和2年10月17日(土)開催  
Vol.2(通算178回目)

### 「特定非営利活動法人桑竹会」の概要

里山の環境を守るために、桑名市を中心に竹林の伐採や整備、維持管理を行っている団体です。伐採した竹の有効活用を図るため、企業や行政等と提携し、竹炭や竹チップなど竹林産物の加工や販売を行い、地域活性化を図っています。また、環境保全の大切さを理解してもらうために、季節ごとに竹を活用したイベントを開催するなどの活動も行っています。

#### ○桑名工業高等学校との提携について

令和元年度から桑名工業高等学校と提携し、授業として生徒自身が校舎裏の竹林を整備し、竹を使った地産地消の製品開発に取り組んでいます。



Q 活動に参加した  
きっかけややりがい、  
自慢できるところ  
は何ですか？



桑竹会の中では若いほうですが、先輩たちの体力には負けてしまいます。本当にパワフルな方ばかりで、このような先輩になれたらいいなと思って活動を続けています。初めて参加しても、近所の人のように仲良くしてもらえるので、そこが参加しやすい一番の理由だと思います。平日は、仕事をしているので参加が難しいですが、できるだけ皆さんについていけるように、できる範囲でお手伝いしていきたいと思っています。



桑竹会では、現役で仕事をしているときには使ったことがない、さまざまな機械を使っています。粉碎機やチェーンソー、草刈り機など、桑竹会に入って機械を扱う中で、機械を修理することが楽しみの1つになっています。機械の保守点検整備を業者に依頼するのではなく、費用がかからないように会員自身で修理したいので、日々奮闘しながら頑張っています。



桑竹会の年齢構成は20代から80代で、平均年齢が70歳を超えていますが、肉体的にハードな仕事を元気に楽しみながら活動しています。最強の高齢者集団です。パワーの源はチームワークの良さです。また、何らかの社会貢献をしたいという心意気が桑竹会にはあります。桑竹会の仕事内容はとてもシンプルで、役割分担が非常に明確です。

しばらく参加できなくても、また参加したときに、すぐに自分の役割を理解して活動できます。そこが非常によいと思います。また、和気あいあいとしていて、非常に心地よい自分の居場所になっています。



私が所有する竹林の一部を竹灯籠のイベント会場として整備し始めた時に、桑竹会ができたので参加しました。最初の2年間は、全く対価や収入がない、ボランティア活動としてスタートしました。だんだん活動の場所が増え、参加者も増えていきました。いろいろな人から竹林整備の相談があり、過去の分も含めると桑名市内の放置竹林約660haのうち、約2%前後の竹林に関与しています。活動が長く続いている理由として、最初は「こんな竹林は整備できないだろう」と思った場所がきれいになると、とても感動します。その感動を共有でき、その思いを繰り返し実感できるので、活動に対する満足感が生まれるのだと思います。



10年ほど前に知り合いに紹介してもらって活動に参加しました。最初は竹林整備の担当でしたが、その後は、イベントで竹の灯籠を作る係を担当しました。最初は1,000個作成するところから始まり、2,000個、3,000個と増えていきました。また、夏休みの工作イベントでは、最初は参加者は少人数でしたが、今では300、400人が参加するくらい増えてきました。他の地域の人達に喜んでもらえたり、顔が見えたりすることが、大きな原動力になります。仕事をしているのでなかなか参加できませんが、分担し合い、教えてもらいながら活動できるところが、続けられる秘訣だと思います。



活動する上で、「継続して取り組む」ということはとても大切だと思います。また、企業や地域、行政などとうまく連携を深めて活動できているところが、非常によいと思います。単独で活動ができるわけではないので、いろいろな関係者から助けられていることが、長く続いている秘訣だと思います。



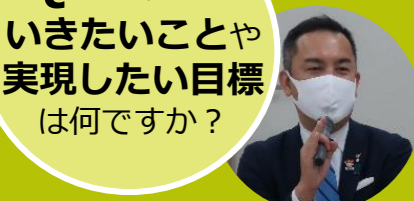
サラリーマンとして働いていた頃は全国を転々としており、会社を辞めたら里山整備などの活動をしたいと思っていました。桑竹会という団体があることは知っていましたが、参加方法がわからなかった時に、桑名市の広報で紹介されているのを見て、去年初めて参加しました。活動に参加してみると、思ったとおり面白く、竹林整備を終えて上を見上げた時に青空が見える、その瞬間が楽しくて活動を続けています。



工業高校の生徒として参加しているのは約10人で、リーダーとして参加しています。参加しようと思った理由は、教室の窓から見える未整備の竹林を見ると、とても荒れていて暗いので、そのような場所を自分たちで変えていけるなら、やってみようかなと思ったからです。また、整備した成果がわかりやすく、達成感があり、そこが「楽しい」につながっていると思います。



Q 今後やって  
いきたいことや  
実現したい目標  
は何ですか？



竹林には、竹だけでなく、「場所」としての使い方があっていいと思います。ドローンなどを飛ばしたり、竹林の中に古民家風の家を建てて座禅をしたり、空間を楽しんだりなど、そのようなことができるイベントをしたいと思っています。また、イベントをしながら会員を増やしていく方法も考えていきたいと思っています。

学校裏の竹林整備について、今年だけでは終わらないと思うので、活動の成果発表会の場で、次の2年生、1年生に魅力を伝えて、ぜひつなげていきたいと思っています。

今後は、持続可能な仕組みづくりをしていかないと、活動が続かないと思います。特に若い世代の方の参加が課題だと思っています。普段は仕事があるので、イベントを通して企画を練ったりする段階から参加してもらい、そこから桑竹会の竹林整備にも参加してもらいたいと思っています。



桑名工業高校裏の竹林を視察しました

個人的には、この活動を趣味にしていきたいと思っています。参加しているみんなからいろんな技術を盗んで身につけていきたいと思っています。

伐採した竹の副産物を、大量に商品にできるものを考えたいと思っています。

桑竹会は令和2年で創設12年です。さらに5年、10年と続けるために運営の仕方などを議論して、活動を続けていきたいと思っています。

現在、桑名市の委託事業を受託したり、国の「森林・山村多面的機能発揮対策交付金」を活用したりしています。「みえ森と緑の県民税」の活用先として、竹林も対象としてもらったことには大きな意義があると思います。いなべ市や津市の方から竹林整備の相談がありますが、私たちの機動力等を考慮すると、できることには限界があります。広域的に活動できるような仕組みになればよいと思っています。

### まとめ

桑竹会の皆さんの活動が長く続く秘訣として、楽しいということはもとより、成果がわかりやすいということが大変勉強になりました。

また、地域の皆さんの安全・安心や楽しみのために大変貢献していただいていることもよくわかりました。ぜひ皆さんの活動を応援したいと思いますし、県内でも広く伝えていきたいと思っています。